

文献紹介

高リスク新生児に対するアトピー性皮膚炎予防のための 短期保湿剤外用早期介入試験—STOP-AD 無作為化比較試験

保湿剤の外用はアトピー性皮膚炎(atopic dermatitis: AD)予防において重要と考えられているが、乳幼児期における保湿剤外用のAD予防効果に関しては効果があるという報告と効果を認めなかったというものがあり、結論が出ていない。本研究では、生後2か月までの期間に毎日保湿剤を使用することで高リスク乳児の12か月時のAD発症率を低下させられるかを検証した。

本研究は、単施設、二群間、医師盲検、無作為化対照臨床試験(NCT03871998)として実施された。対象は、ニュージーランドのCork University Maternity Hospitalで生まれた高リスク群の新生児であり、高リスク群の定義は親がAD、気管支喘息、アレルギー性鼻炎の既往歴を有する満期産児とした。新生児は生後4日以内に介入群(生後8週間、保湿剤を1日2回塗布、 $n=161$)とコントロール群(標準的な日常スキンケアを実施、 $n=160$)に割り付けられた。頬スワブを用いて、フィラグリン遺伝子型のジェノタイピング(PCR)を行った。

介入群における外用アドヒアランスは日記を通じて評価したが、1日1回以上外用できていたのは、2週、

4週、8週時点で89.0%、91.7%、86.6%であり、1日2回外用できていたのは63.6%、69.2%、73.1%と先行研究に比べて高かった。生後12か月におけるADの累積発症率/点有病率はコントロール群に比べ介入群で低かった(46.4% vs 32.8%, $p=0.036$, 38.2% vs 20.5%, $p=0.003$)。フィラグリン機能喪失変異の有無に関する情報を付加した関連解析は、保湿剤外用によるAD発症抑制効果はフィラグリン遺伝子変異“なし”群に比べて変異“あり”群で大きいことを示した。

以上より、高リスク乳児に対して、出生直後から生後2か月までの期間に連日保湿剤を外用することでADの発症リスクを低下させることが実証された。

Ni Chaoimh C, et al : Early initiation of short-term emollient use for the prevention of atopic dermatitis in high-risk infants-The STOP-AD randomised controlled trial. *Allergy* **78** : 984-994, 2023

(慶應義塾大学 林 明澄)